

審査の結果の要旨

氏名 崔海玉

本論文は、知識経済化の進行する社会における地域開発政策のあり方について、知識ネットワークの形成という観点から迫ろうとするものである。とりわけ、韓国では1990年代後半の金融危機後、IT分野をはじめとして、知識経済化を強く意識した地域開発政策が展開され、その政策は空間的に大きな影響を及ぼしてきた。地域におけるイノベーションあるいは創造性をいかに強化するかは、知識経済化の進行する今日の社会において、喫緊の課題となっており、そのひとつの鍵は、効率的な知識ネットワークの形成にある。この面で先進的な地域開発政策を推進しつつある韓国の事例は貴重である、本研究は、韓国における近年の先進的な事業の展開の意義を、膨大な共同研究ネットワークに関するデータの分析に加えて、丹念なインタビューとアンケート調査というフィールドデータの分析を用いて解明した先駆的な研究であり、高い学術的価値を有していると認められる。

本研究の目的は、デジタルコンテンツ産業を事例として、知識経済下における有力なリーディング産業として期待される創造産業における知識ネットワーク形成のプロセスと、その形成に果たした政策効果を解明することである。とくに、知識ネットワークとして、フォーマルなネットワークである共同研究ネットワークのみならず、企業家間のインフォーマルなネットワークの形成プロセスについても詳細なフィールド調査を積み重ねた点に本研究の新規性が認められる。具体的には、韓国知識経済省の有する膨大な共同研究に関するデータベースの分析に加えて、韓国政府が、IT分野におけるイノベーション政策の柱として進める大徳イノポリス事業(DDI)とソウル・デジタル・メディア・シティ事業(DMC)を事例として取り上げ、政府担当者、企業家に対するインタビューならびにアンケート調査を実施し、その分析をもとに、企業家個人間ネットワークと組織間間のネットワークの構造的、空間的、時間的的形成プロセスを政策効果という観点から考察することを目的としている。

分析から得られた主な知見は下記の通りである。

(1) DDIとDMCにおける知識ネットワークの形成プロセスは大きく異なっており、DDIでは企業家間の自己組織化プロセスが強くネットワーク形成に働いてきた。とりわけ、企業者、大学や研究機関の研究者の参加するインフォーマルなグループの形成が知識ネットワーク形成に重要な役割を果たしている。DDI事業では、組織を超えたインフォーマルなグループの形成を積極的に進めてきており、この面で政策効果が認められた。一方、首都であるソウル市に立地するDMCにおいてはマーケット(顧客)との関係性が強く働いている。このことは、当該事業の立地する地域のもつ特性が知識ネットワーク形成プロセスについてもきわめて重要な役割を果たすことを意味している。

(2) 韓国のイノベーション政策においては、地域内の知識ネットワーク形成を重要な柱としてきたが、組織間のネットワークの強化という点では、とくに、DMC 事業において、政策支援のもとで、大学がネットワークのハブの役割を果たしており、効果が認められる。DMC 事業は、調査時点において、イノベーションクラスター形成の初期的な時期に当たっており、当該時期において、大学・研究機関等がハブとして重要な役割を果たすことが確認された。一方、一定の時期を経て、成熟期にあるともいえる DDI においては、現在、逆に、全国的なレベルでのインフォーマルなネットワークが重要な課題と認識されており、時期に応じた適切な政策支援の重要性が指摘できる。

(3) 時間軸に沿ってみると、既往文献において指摘されているように、知識ネットワーク形成プロセスにおける、技術先導期、ネットワーク形成期、学習ネットワーク形成期、イノベーションネットワーク形成期の4期が存在することが、本研究の事例研究においても見て取れたが、それぞれの時期における、政府が果たすべき異なる役割、空間的な含意という点で新たな知見を得ている。

以上のとおり、本研究は、韓国における先進的なイノベーション促進型地域開発政策を事例として、知識ネットワーク形成プロセスの解明と、その支援にあたっての政策的含意を、丹念なフィールド調査に基づいて実証的に明らかにしたものであり、学術的に優れた価値を有していると同時に、きわめて有益な政策的含意を有するものである。

よって本論文は博士（工学）の学位請求論文として合格と認められる。